

報道関係各位

2007年11月吉日

慶應義塾大学SFC研究所

慶應義塾大学SFCの産学連携イベント SFC Open Research Forum 2007 『toward eXtremes』

日 程 : 2007年11月22日(木) ~ 11月23日(祝)

会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 40(六本木ヒルズ森タワー40階)

慶應義塾大学 SFC 研究所(湘南藤沢キャンパス(SFC)) / 所長: 國領二郎 慶應義塾大学総合政策学部教授)は、SFC で行われている研究活動の成果を社会に還元すると同時に、各産業界の皆様と協同して課題に取り組む機会の創出を目的とした SFC Open Research Forum(ORF)を、今年も11月22日、23日の2日間、六本木アカデミーヒルズ 40(六本木ヒルズ森タワー40階)にて開催いたします。SFC で行われている研究活動の成果を社会に還元すると同時に、各産業界の皆様と協同して課題に取り組む機会の創出を目的として開催いたします。

開催に伴い、11月22日(木)13時40分(受付開始 13:30)より、会場内で報道関係者向けの記者発表会を実施します。この記者発表会プレビューでは、凸版印刷株式会社とSFCとの産学連携による共同研究活動の成果発表を行います(詳細については別紙にてご確認ください)。

今年で開催12回目となるORF2007のテーマは、「toward eXtremes-未来創造塾の挑戦-」。メインストリームを目指すことなく、「極限」(エクストリーム)を想起し実現を試みるのが大学という組織の役割であると考え、クロスオーバーした周辺が一点に向かうのではなく、むしろ発散・分散して多種多様に広がっていく、その極限を目指します。当日は6つのeXtremeなメインセッションとSFCの150を超える先端研究を、展示・デモンストレーション、ワークショップなどにより紹介いたします。都内で開催したこれまでのORFには、企業や官公庁、教育機関の方を中心に多くの方にご来場いただき、丸の内で開催したORF2006には約7000の方にご来場いただきました。



SFC Open Research Forum 2007
『toward eXtremes』
キービジュアル

6つのメインセッションのうち、22日の『地球の科学技術を考える』では、宇宙飛行士の毛利衛氏(日本科学未来館館長)と竹中平蔵(慶應義塾大学 G-SEC 研究所長)、村井 純(慶應義塾常任理事)が、世界の中で日本が果たすべき役割、21世紀の技術政策のビジョンについて、毛利、村井両氏の“eXtreme”な科学技術の見解を交え、多様な視点から議論を展開します。このセッションでは、科学技術未来館と六本木ヒルズで高解像度映像の双方向中継を行い、ORF 会場(六本木ヒルズ)にいる毛利館長が、科学技術未来館の来場者へ話しかけるなど、リアルタイム中継をしながらセッションが進行します。また、23日に開催の『微小世界の最先端』では、SFC を代表する3人の研究者が、極限のマイクロスペースに、新しいリアルを発見するべく、3D 映像なども交えて、それぞれの実践であるシステムバイオロジー、量子コンピューティング、極小昆虫の写真撮影、について語ります。

そして、アカデミーヒルズ 40 の 40 カフェでは、500 冊以上の SFC の教員・学生・卒業生の著書を集めた「SFC ブックカフェ: 知の生態系を育てる」がオープンします。SFC の教員・学生・卒業生が書いた「本」を一堂に集めて展示し、SFC の分野の広がりや深さを味わっていただけるよう、「本」というメディアをキーとして、「知」の関係性と広がりを感じることができる空間をつくります。学問分類上はバラバラに見える SFC の研究が、いかに「つながっているのか/ つながる可能性があるのか」を可視化し、また本やブース発表などの関係性を「知の生態系」として捉えて、大型タッチディスプレイ上で「知の生態系」が進化をしていく様子をグラフィカルにご覧いただくことができます。また、手元のモニターでは、お選びいただいた本の内容に関連するおすすめのブースや著書の紹介をご覧いただけます。これらのシステムは、本による「知」の関係性を新しい形で可視化するために、IC タグの技術、メディアデザインの技術、関係性を解析する技術等、SFC で普段研究されている技術の組み合わせで実現されています。

さらに、慶應義塾大学電気自動車研究室が産学連携で開発を行い、実用化を目指すリチウムイオン電池の電気自動車『Elica(エリーカ)』は、六本木ヒルズ 52 階のシティビューの別会場にて展示を行います。ORF のご来場の皆様に未来的で優雅なスタイリングでありながら、時速 370km を記録したエリーカをご覧いただけるよう、シティビューへのパスもご用意しております。



SFC の“eXtreme”な数々の研究成果が一同にご覧いただける SFC Open Research Forum 2007 開催告知のご掲載及び、ご取材・報道にご協力を賜りたく存じます。時節柄ご多用のことと存じますが、記者発表会、会場取材に関しましては、参加の御意向を、11月21日(水)正午までに、別紙FAXシートにてお知らせいただけますようお願い申し上げます。

取材でご来場の際には、プレス受付にて受付をお願いします。取材用のパスをお渡します。

SFC Open Research Forum 2007 『toward eXtremes』-未来創造塾の挑戦-

概要

日 時:2007年11月22日(木)10:00~21:00、23日(金・祝)10:00~19:00
 記者発表会:2007年11月22日(木)13:40~14:10 (受付開始:13:30)
 但し、22日(木)の展示会場は10:00~19:30
 場 所:六本木アカデミーヒルズ40(六本木ヒルズ森タワー40階)
 U R L :http://orf.sfc.keio.ac.jp/
 実行委員長:國領二郎(慶應義塾大学総合政策学部教授/慶應義塾大学 SFC 研究所長)
 主なプログラム:メインセッション6企画、研究成果の展示・デモンストレーション約150展示、
 Digital Art Awards 2007、SFC Entrepreneur Award 2007、SFC ブックカフェ
 参 加 費:無料 (お名刺をお持ちいただき、直接当日お持ちください。)
 主 催:慶應義塾大学 SFC 研究所
 同時開催:第一回 G-SEC 年次コンファレンス、湘南藤沢学会、
 Digital Art Awards 2007、SFC Entrepreneur Award 2007
 特別協力:アカデミーヒルズ

メインセッション キャラント B

<p>FTA・EPA で磨く日本の国際競争力 東アジア経済共同体構築に向けて (SFC フォーラムセッション) <u>11月22日(木) 10:30 - 12:30</u></p>	<p>オーストラリア公使 Allan McKinnon 在日米商工会議所 会頭 Charles D. Lake II リーマン・ブラザーズ証券株式会社 顧問/環境経営学会理事 青木修三 株式会社野村資本市場研究所 主席研究員 関 志雄 日本経済新聞社 編集局次長兼アジア部長 竹岡 倫示 三菱商事株式会社 業務部顧問 團野 廣一 <モデレータ> 総合政策学部教授 渡邊 頼純</p>
<p>地球の科学技術を考える 共催:日本科学未来館、日本学術会議 科学力増進分科会 <u>11月22日(木) 13:00 - 14:30</u></p>	<p>日本科学未来館 館長 毛利 衛 慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 所長 竹中 平蔵 慶應義塾 常任理事 村井 純</p>
<p>ソーシャルデザインの思考 <u>11月23日(金) 11:00 - 12:30</u></p>	<p>首都大学東京教授 宮台 眞司 慶應義塾大学総合政策学部 教授 國領 二郎 慶應義塾大学環境情報学部 専任講師 神成 淳司</p>
<p>微小世界の最先端 <u>11月23日(金) 13:00 - 14:30</u></p>	<p>慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授 小檜山賢二 慶應義塾大学環境情報学部 准教授 内藤 泰宏 慶應義塾大学環境情報学部 専任講師 バンミーター, ロドニー</p>
<p>日本に求められる組織設計の イノベーション <u>11月23日(金) 15:00 - 16:30</u></p>	<p>イー・モバイル株式会社 代表取締役会長兼 CEO 千本 倅生 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 委員長 金子 郁容 慶應義塾大学総合政策学部 教授 上山 信一</p>
<p>未来創造塾 - 20年後のエリート・コミュニティを創る <u>11月23日(金) 17:30 - 18:30</u></p>	<p>慶應義塾 常任理事 村井 純 慶應義塾大学総合政策学部 学部長 阿川 尚之 慶應義塾大学環境情報学部 学部長 徳田 英幸 慶應義塾大学看護医療学部 学部長 山下 香枝子 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 委員長 金子 郁容 慶應義塾創立150年記念 SFC 委員会</p>

その他の主なプログラム

凸版印刷株式会社・SFC 研究所プラットフォームデザイン・ラボ共同記者発表会

11月22日(木) (キャラントC1) 13:40～14:10

**慶應大学 SFC 研究所プラットフォームデザイン・ラボと凸版印刷が新たな企業ポイントの利用モデルを開発
～セールスプロモーションと社会貢献を組み合わせたポイントマーケティングの進化版～**

『印刷技術を使った商品購入の瞬間が分かるツール』と『多くの生活者に馴染みあるポイントプログラム』の組み合わせによる、セールスプロモーションと社会貢献をマッチングさせた、新たなポイントによるマーケティングのプラットフォームモデルを慶應義塾大学 SFC 研究所プラットフォームデザイン・ラボと凸版印刷株式会社の共同研究で開発しました。この産学連携による研究成果の発表を行います。

発表者(予定): 慶應義塾大学 プラットフォームデザインラボ所長 國領二郎
凸版印刷株式会社 常務取締役 降矢祥博 ほか

IP OVER デジタル放送 デモンストレーション 11月22(木)・23日(金・祝) B46

村井純研究室 / KDDI 株式会社 / 株式会社エフエム東京

「IP over デジタル放送」プロジェクトは、デジタル放送をインターネットの伝送路として用いる基盤技術や、デジタル放送を用いることで構築できる広域ネットワークでのサービスやアプリケーションへの応用について、研究開発に取り組んでいます。ORF2007では、マルチメディア放送ビジネスフォーラムと協力し、「IP over デジタル放送」の技術を実用化試験放送として運用されている地上デジタル音声放送(デジタルラジオ)の伝送システムに接続し、デモンストレーションを行います。このデモンストレーションは、東京タワーから送信されている地上デジタル音声放送の実放送波を用いてインターネット接続環境を構築するという、日本で初めての試みとなります。今回のデモンストレーションは、デジタル放送とインターネットの協調によって「放送・通信の融合」や放送波を用いた広域ネットワークがどのように展開していくかについて、技術やサービスなど様々な視点から実証していく初めての機会です。

Digital Art Awards 2007 (DAA2007) 11月23日(金・祝) 15:00～16:30 (キャラントC)

デジタルコンテンツ時代をリードする若きクリエイター達のために慶應義塾大学 SFC 研究所が設置したコンペティションで、学生デジタルクリエイターの国際的な舞台への登竜門となることを目指しています。回を重ね、応募作品のクオリティも年々高くなっており、今年は高校生部門の入賞者の特典として SFC の AO 入試の一次選考免除も設けられます。

ゲスト: RAKASU PROJECT.(音楽家) 有馬 純寿(サウンド・アーティスト)

高校生講座 11月23日(金・祝) (キャラントC2) 「高校生のための英語講座」 12:30 - 13:30

「高校生のための SFC 案内」 16:30 - 17:30

SFC で教鞭をとるロルピン先生による、日本の文化を海外に発信するための英語のチュートリアルを行います。実際に SFC の英語の授業において学生が作成した WEB 教材を使用し、普段の高校の授業とは一味違う英語の授業を体験してください。また SFC 案内では、高校生のみなさんと対話しながら、パンフレットやお決まりの大学案内では、わからない SFC の魅力を SFC の若手教員達が伝えます。

慶應義塾大学 SFC 研究所とは

1996年7月に発足した SFC 研究所は、21世紀の先端研究をリードする、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)の3学部1研究科の附属の研究拠点として、産官学および国内外のあらゆる関連活動との双方向の協調関係を育みながら先端的研究を行っています。

本件に関する問い合わせ先

慶應義塾大学 SFC 研究所 ORF 事務局 担当: 後藤百紀 TEL: 0466-49-3436 orf-aria@sfc.keio.ac.jp